
山形県

中山町

町勢要覧





最上川河畔から望む月山と現役で活躍する国内最古のＪＲ鉄道橋

目次

- 4…スポーツを通じた
「健幸」のまちづくり
- 6…町総ぐるみで子育てを応援
- 8…フルーツのまち なかやま
- 9…ふるさと寄附のお願い
- 10…旧柏倉家住宅と黒塀のまちなみ
- 12…中山町は芋煮会発祥の地
- 14…岩谷十八夜観音庶民信仰資料
- 16…中山町と西郷兄弟の縁
- 18…中山町のあゆみ
- 20…中山町マップ
- 22…第6次中山町総合発展計画
- 23…数字で見る中山町

芋煮会
発祥地
中山町



中山町町民歌

きた ひろし 作詞
服部 公一 作曲

1 ^{はな}紅花つみの乙女をうつし
流れゆく最上の水よ
朝霧も色そえて
美しい人の和が
明るい未来を創るまち
我が町 なかやま

2 ^{しろがね}白銀を ^{はやて}はこぶ疾風は
^{たかとり}高取の ^{みやま}御山をおおい
ふるさとの歴史きたえる
たくましい人の輪が
強い未来を創るまち
我が町 なかやま

3 ^{なかぞら}中空に ^{いちょう}そびえる銀杏
^{こがね}黄金なす ^は稲穂に映えて
みはるかす蔵王・月山
大きな人の輪が
豊かな未来を創るまち
我が町 なかやま

(昭和59年10月1日制定)

人口減少と少子高齢化の進展、大規模地震や豪雨など激甚化する自然災害、個人の価値観やライフスタイルの多様化など、国内外の社会環境は大きく変化し、人々の暮らしにも様々な形で表れています。このような時代の変化に対応するとともに、これまで築き上げてきたまちづくりを尊重し、継承しながら、町民すべてが夢を持てるまちづくり・将来にわたり持続可能な地域づくりを推進するため、令和3年3月に「第6次中山町総合発展計画」を策定しました。「郷土の誇り（シビックプライド）」という言葉があります。この言葉は単なるまち自慢や郷土愛ではなく、「このまちをより良い場所にするために自分自身が関わっている」という当事者意識を指します。町民一人ひとりに自分事としてまちづくりに参画していただき、安全・安心・住みよいまちを実現するとともに、中山町が持つ特性や資源を磨き上げ、生涯住み続けたいまちとして選ばれようなまちを目指します。

この町勢要覧が、中山町の魅力と可能性をお伝えできる一冊となれば幸いです。



中山町長
佐藤 俊晴

子どもから大人まで いきいきと スポーツを通じた「健幸」のまちづくり



中山町では、一人ひとりが健康かつ生きがいを持ち、安全・安心で豊かな生活を営むことができるよう、スポーツを通じた「健幸」のまちづくりを推進しています。そのため、町内に、町民が生涯を通してスポーツを楽しむことができる環境を整えています。

町内外から多くの人が訪れるひまわりグラウンド・ゴルフ場をはじめ、総合体育館、町民グラウンド、町民テニスコート、すばいく中山（屋内ゲートボール場）、町民プールなどの町有施設の利用が可能です。また、高校野球やプロ野球の試合会場にもなる中山公園山形県野球場（荘内銀行・日新製薬スタジアム）があります。

町商工会青年部
マスコットキャラクター
「すもものしずくちゃん」



〈最上川中山緑地と せせらぎ公園〉

最上川中山緑地は中山町都市公園条例により設置し、最上川上流部から各広場、せせらぎ公園、ひまわりグラウンド・ゴルフ場（せせらぎ公園から下流へ1km）で構成されています。北には霊峰「月山」、南には「蔵王山」を一望できるすばらしい景勝地で、ウォーキングコースとしても人気があります。

また、同緑地の北を走るＪＲ左沢線の最上川橋梁は、現役では国内最古の鉄道橋で、鉄道ファンには魅力的なビュースポットです。



日本体育大学と 「スポーツ推進・健康づくりに関する協定」を締結

平成28年8月29日、スポーツおよび健康づくりの分野において、それぞれの有する教育資源を有効かつ適切に活用し、お互いの一層の発展とさらなる社会貢献・地域貢献を図るため、学校法人日本体育大学と「スポーツ推進・健康づくりに関する協定」を締結しました。

日本体育大学学生の町内合宿、学生さんによる子どもたちへのスポーツ指導や、高齢者の健康づくりイベントへの参加を通じて、町民との交流が行われています。



中山中学校改築記念行事で日体大の学生さんが集団行動の演技を披露してくれました

「チャレンジデー」への参加 町全体でスポーツを通じたまちづくり



住民のスポーツ参加率を競う「チャレンジデー」（主催：笹川スポーツ財団）に平成29年から継続して参加しています。毎年5月の最終水曜日は、町民全員でスポーツを楽しみ、日々の生活で体を動かす習慣をつくる日です。

歩くことは日常でもっとも身近な健幸づくり 「歩いて**健幸**のまちづくり」を推進



町内には散策コースも設定されています

町が目指す「健康寿命の延伸」のためには運動が不可欠です。運動不足は生活習慣病や認知症発症の大きな要因となります。

平成30年にスタートした「なかやま健幸くらぶ」は、誰もが取り組みやすい「歩く」ことから運動不足の解消を目指す健康づくりサポート事業です。参加者は、活動量計やスマートフォンアプリで自身の歩数データ等を確認しながら、健康な体づくりを目指します。また、正しいウォーキングの方法や筋力トレーニングの指導を受けることができるため、1人で運動するのが苦手な方にもおすすめです。

すべての子どもが健やかに

町総ぐるみで子育てを応援



町の子育て支援方針

町は、共働き世帯や核家族世帯の増加に伴い、子どもを安心して産み、ゆとりを持って健やかに育てるために、関係機関が連携して子どもの健全な発育と発達を支援していくことが必要と考えています。子どもや子育て家庭が「中山町で子育てすること」に安心感や充実感を得られるよう、保育サービスとして教育機関である幼稚園でも預かり保育を実施し、ニーズに応じた提供を行っていきます。

また、放課後等の子どもの居場所の確保が重要な課題となっており、子どもの居場所の充実と遊び・学びの場の提供を一体的なものとして捉え、放課後児童クラブなどの事業を展開しています。地域社会における人との交流、体験活動等を通して他者への思いやりのある豊かな心を育むよう進めています。

町教育方針



現在、町では「自立」「共生」「創造」の3つを柱に、小・中学校と連携しながら、「ふるさとを愛し、豊かな心と想像力にあふれ、たくましく生きる子どもの育成」に努めています。

具体的には、3校共通の研究テーマ「自分の言葉で表現豊かに語れる子どもの育成」探究型学習をとおして「」を設定し、子どもたち一人ひとりが自分の考えを豊かに表現できる力を育む授業づくりに取り組んでいます。そのための授業改革の一環として、積極的なICT機器の活用などを行っています。また、防災教育や町の自然・文化を活用した体験活動などによる「いのちの教育」の推進にも取り組んでいます。

さらに、幼保小中の連携や教育相談にも力を入れ、切れ目なく子どもの育ちを見守る支援を行っています。



3つの放課後児童クラブ

共働きなどで、家に帰っても保護者がいない子どもたちが安心して過ごせるよう、町内では3つの放課後児童クラブを設置しています。仕事と子育ての両立の実現により、子育てすることが楽しく、幸せを感じることができ、子育て世代に優しいまちづくりを目指します。



一緒に宿題をしったり遊んだり

地域参加による 学びの未来

学校運営に地域の声を活かし、保護者や地域住民が連携し、学校運営の基本方針などを話し合いながら、地域力を活かした学校支援、学校力を活かした地域づくりを進める「コミュニティ・スクール」を推奨しています。

町では、地域の皆さんに教育活動へ積極的に参画していただけるよう、地域人材の発掘や教育資源の収集・整理をしながら、学校・家庭・地域全体で子どもたちの郷土愛を育み、将来のまちづくりの担い手育成につなげていくため、地域とともにある学校づくりを目指しています。

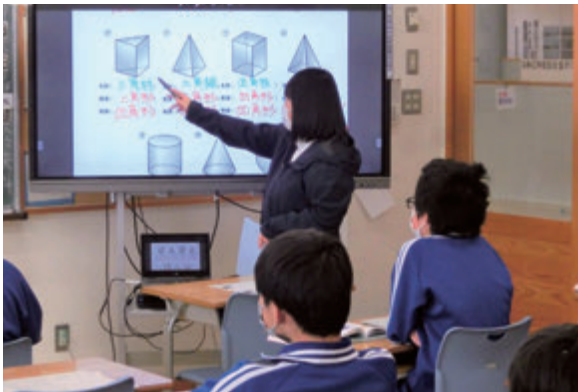


地域の方々が先生役に

GIGAスクール構想 電子黒板・タブレットを 活用したICT教育

学校は、社会を生き抜く力を育み、子どもたちの可能性を広げる場です。子どもたちが、豊かな創造性を備え、持続可能な社会の創り手として、予測不可能な未来社会を自立的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成していく必要があります。

町では、子どもたちがICTを適切・安全に使いこなすことができるように、情報活用能力を育成していきます。



電子黒板でより詳細にわかりやすく

自然とふれあう学習も 中山町の魅力

自然豊かな中山町では、子どもたちの学習に、田植え体験や野菜づくりなど、自然とふれあう学習を取り入れています。この学習を通して、子どもたちの豊かな心を育みながら、農業の楽しさや面白さを体験し、農業に興味を持ってもらうきっかけをつくっています。

冬は、授業の一環としてスキー体験ができるのも雪国ならではの魅力です。さらに、真っ白に積もった雪上で子どもたちがカルタ取りを行う「なかやま雪中カルタ大会」は、中山町の冬の風物詩となっています。



秋には稲刈り体験も

名産のすももは 東北有数の生産量を誇る

中山町は奥羽山脈と出羽丘陵に囲まれた山形盆地にあり、寒暖差が大きいいためおいしい果物ができあがります。そんな中山町では、すももをはじめ、さくらんぼやりんご、ラ・フランスなど、様々なフルーツを栽培しています。



全国的に珍しい 「すもものワイン」

すもも
ジャム



すももの風味や甘み、色を生かした甘さひかえめのジャム。

ソルダム

甘みと酸味のバランスがよく、お酒が苦手な人も飲みやすい。



大石早生

ジューシーな果肉と甘酸っぱさを生かしたさわやかな味わい。



豊かな土壌と最上川の恵み
フルーツのまち
なかやま

お米もおいしい中山町 10aあたりの収量は全国2位（令和2年度）

豊かな土壌と山形県の母なる川「最上川」の恩恵を授かっている中山町は、水稻栽培が盛んで、10aあたりの収量は全国2位を誇っています。

資料：東北農政局HP「公表予定及び公表結果」

中山町の米と水で作る地酒 「ひまわり娘」

平成23年、新品種として登場したばかりのつや姫を酒米として使用し、リニューアルした地酒「ひまわり娘」も中山町の特産品です。

「町内産のつや姫」と中山町土橋の「滝の湧水」を仕込み水として使用しており、香り高くクリアな味わいが特徴です。

中山町に訪れた際は、ぜひ飲み比べてみてください。

全国で初めて
つや姫を酒米に



<写真左から>

- ・純米酒
- ・純米大吟醸
- ・純米酒(生原酒)





中山町を魅力あふれる町に ふるさと寄附（ふるさと納税）のお願い

中山町では第6次中山町総合発展計画で定める町の将来像「郷土の誇りを 未来につなぐ ひとが輝く健幸のまち なかやま ～思いやりの絆で築く みんなの想いが響くまち～」を目指し、町が一丸となって魅力あるまちづくりに取り組んでいます。

「ふるさと寄附制度」は、中山町を応援してくださる皆さんの思いを「寄附」という形で表していただくものです。寄附を申し込む際に、下記の分野ごとに使いみちを指定することもできます。

1. 歴史的建造物の保存と利活用のために
2. 子どもたちの教育環境の充実のために
3. 住みたい、住み続けたいまちをつくるために
4. 町におまかせ（使途を指定しない場合）

①個人で寄附していただいた場合

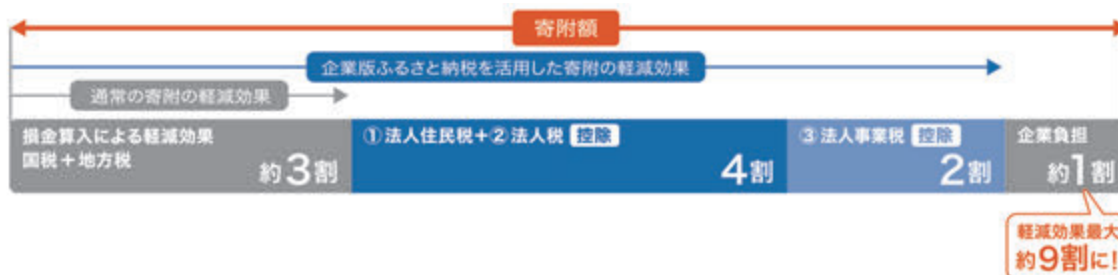
納税者が中山町などの地方自治体に寄附（ふるさと納税）した場合、申告（所得税の確定申告もしくは住民税の申告）をすることによって、所得税および個人住民税の所得割から一定の控除を受けることができます。

また、ふるさと寄附金として寄附をいただいた方に対し、感謝の気持ちとして町の特産品等の返礼品をお贈りしています。

②企業で寄附していただいた場合

企業版ふるさと納税（地方創生応援税制）は、国が認定した地方公共団体の地方創生プロジェクトに対し企業が寄附を行った場合に、寄附額の6割を法人関係税から税額控除する仕組みです。これにより損金算入による軽減効果（寄附額の約3割）と合わせて、最大で寄附額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担は約1割まで圧縮されます。

出典：地方創生サイト（https://www.chisou.go.jp/tiiki/tiikisaisei/kigyous_furusato.html）企業版ふるさと納税リーフレットより



中山町への寄附を通じて、社会貢献に取り組む企業としてPRすることができます。中山町では、広報紙や町公式ホームページのほか、旧柏倉家住宅に銘板を設置して企業名を紹介しています。

詳しくは町公式ホームページ（<https://www.town.nakayama.yamagata.jp>）をご覧ください。



▲中山町公式HP

里山の自然と一体となった豪農屋敷群

旧柏倉家住宅（柏倉九左衛門家）のある当町岡地区^{あざみなみ}字南は、西側に里山（三嶋山）、東側に村山盆地が広がる風光明媚な場所です。約2,300坪の敷地には隣接する里山から獣や鳥が来訪し、江戸時代以来生息してきた様々な草花を季節ごとに楽しめます。同住宅では里山の自然水を屋敷に巡らし、生活用水をはじめ園池や溜池に活用してきました。自然と共生してきた旧家の生活文化が伝わり、美しい紅葉など四季折々の景観が来訪者の心を癒やしてくれます。

柏倉家は17世紀半ばにこの地に移ったといわれ、周辺に多数の分家を創設しました。それぞれ豪農に成長し助け合いながら、黒塀に囲まれた旧家の屋敷群を伝存しています。町指定文化財である旧柏倉惣右衛門家住宅もその1つです。里山と一体となった豪農屋敷群を一族で形成していることは全国でも貴重であり、黒塀のまちなみは平成28年（2016年）に「未来に伝える山形の宝」（山形県）に登録されました。



真っ白な蔵と黒塀

伝統文化の粋が尽くされた巨大民家

旧柏倉家住宅の^{おもや}主屋は18世紀後半の建物を一部に遺し、19世紀末に大改修されました。^{かやぶ}茅葺き大屋根の主屋には煎茶趣味の意匠や^{きりかね}截金細工を施した座敷のほか、土間や台所などの生活空間が良く遺されています。

柏倉一族は浄土真宗の門徒であり、阿弥陀如来の木仏を本山（東本願寺）の許可を得て仏間蔵に安置しています。この蔵は、仏間のためだけに造られた建物として有名です。また、婚礼や賓客の際に使用した前蔵には書院造や^{しゅんけい}春慶塗、^{ふすま}襖絵が施された座敷があり、全国でも名高い山形の蔵座敷文化を代表するものです。

各建物の随所^{しつげい}に漆芸が尽くされ、敷地には長屋門・内蔵・北蔵・^{もみどう}粉堂・大工小屋なども遺されています。里山にある鎮守の三嶋神社を含めて地主当時の諸施設が揃っている貴重な場所です。



仏間蔵



同住宅は「明治期の南東北地方における上質な農家建築」と評価され、令和元年（2019年）に国指定重要文化財となりました。また、毎年ひなまつりが開催されており、日本の伝統文化や生活空間を見学し体験できる場として、旧柏倉家住宅や旧柏倉惣右衛門家住宅は一般公開されています。

（表紙の旧柏倉家住宅と三嶋山の全景もご覧ください）



旧柏倉家住宅 HP



旧柏倉家住宅

村山地方を代表する紅花づくり

江戸時代の村山地方は紅花特産地帯として発展していました。九左衛門家は自作農業にも励み、例えば天保8年(1837年)には摘んだ花卉^{もんめ}の量で100貫824匁(約378kg)もの紅花を生産しました。この量は江戸時代の村山地方における一農家の生産量としては最多量級です。また、同家は連作障害がきつい紅花の特性を踏まえて輪作を長年実施し、質の良い紅花づくりにも尽力しました。

この歴史を踏まえて、旧柏倉家住宅近くの畑で平成25年(2013年)に有志が集い137年ぶりに紅花づくりが復活しました。現在も地域住民により輪作による紅花栽培が継続され、毎年紅花まつりも開催されています。

これらの取組みにより、旧柏倉家住宅や紅花畑の景観などは平成30年(2018年)に日本遺産「山寺と紅花」の構成文化財に認定され、柏倉家における紅花輪作の歴史は平成31年(2019年)の日本農業遺産「歴史と伝統がつなぐ山形の最上紅花」認定の歴史的根拠となり、当町は認定地域・団体とされました。



朝露に濡れる紅花



早朝の紅花摘み

…朝露のおかげで紅花のトゲがやわらかくなり、摘みやすくなります。



山形県民のソウルフード「芋煮」

中山町は芋煮会発祥の地



町内外から多くの人が訪れます

最上川舟運にまつわる 芋煮会のルーツ

山形県をはじめ、東北各地でも秋の風物詩として行われる「芋煮会」、そのルーツは中山町にあります。

山形県を南から北へ、そして日本海へと流れる「母なる川」最上川。江戸時代には、この最上川を利用した舟運が盛んでした。県の内陸部からは、米や紅花、青芋^{あおそ}などを酒田を経由して京都や大阪へ、一方、京都・大阪からは砂糖や干魚のほか、衣類や雛人形など、上方文化を運んで来しました。

元禄7年（1694年）に荒砥（白鷹町）まで最上川舟運が通じる以前、長崎湊（中山町）は舟運の終点であったとされ、米沢方面への船荷の積み替えが行われた要地でした。その舟運に携わる船頭や商人たちは、荷揚げや荷待ちの逗留の間、棒だらと里芋を材料に、川岸の松の枝に鍋を掛けて煮て食べたといわれています。これが、芋煮会の始まりです。

今のように、牛肉を用いるようになったのは、昭和の初め頃だといわれています。里芋、牛肉、こんにゃく、ネギというシンプルな材料ながら、その味は、身体にしみる私たちのソウルフードです。





芋煮会のシンボル「鍋掛松」



芋煮鍋を囲む船頭たち



秋には河原で元祖芋煮会 in 中山が開催され、

日本三大芋煮のひとつ「芋棒煮」

芋煮会発祥の地である中山町では、かつて船頭や商人たちが食べていたとされる昔の味を再現した「芋棒煮」も名物のひとつです。里芋、棒だら、油揚げ、干し椎茸、こんにゃくを具材に、棒だらの出汁が効いた醤油ベースの芋煮は、秋の一大イベントである元祖芋煮会でふるまわれます。ここにしかない「芋棒煮」を一度は食べてみたいと、毎年長蛇の列ができてしまうほど人気があります。

「日本三大芋煮」とは、中山町の誇る「芋棒煮」と、島根県津和野町の「芋煮」、愛媛県大洲市の「いもたき」の異なる芋煮・いもたきのことを指します。ＪＲ東日本が出資している交通新聞社が発行した『旅の手帳』に、３市町が「日本三大芋煮」と称されたことをきっかけに、平成26年（2014年）から３市町で連携し、芋煮・いもたきをＰＲするためのイベントや情報発信を行っています。

入っている具材も味付けも違う郷土料理には、それぞれが歩んできた歴史が詰まっています。



中山町 芋棒煮



津和野町 芋煮



大洲市 いもたき

岩谷地区 かつて集落があった土地

岩谷地区は、標高300mの山の中にあった集落で、かつて多い時で38軒ほどの住宅がありましたが、昭和55年（1980年）に最後の1軒が離村してから、現在は人の住まない廃村となっています。

その岩谷地区には、「岩谷十八夜観音堂」があります。古く敏達天皇の代、蘇我馬子の商臣右近衛秀豊の開基と伝えられ、その後、承和7年（840年）慈覚大師が鷲沢をさかのぼって岩谷の地に至り、再興したといわれています。そのため、付近一带には、奥の院・鼻毛岩・お教壇・木櫃石・観音山などの宗教遺跡が散在しています。十八夜観音堂の本殿は文政9年（1826年）の建立で、拝殿は大同2年（807年）の再建と伝えられていますが、江戸初期の建造物と推定されています。

岩谷十八夜観音庶民信仰資料

昭和59年に国指定重要有形民俗文化財となる

岩谷十八夜観音は、江戸中期から大正初期にかけて、川西三十三観音の札所として信仰を集めただけでなく、眼病の神として栄えました。そのため、盲目で神おろしをする「オナカマ」と呼ばれる女性たちが修行をする場所でもあり、彼女たちが口寄せをする際に使用した道具や、民間信仰の対象として奉納された絵馬などが多数残されていました。それらの貴重な資料は、昭和44年（1969年）の町の民俗調査の際に発見され、「村山地方におけるオナカマ習俗」として調査研究され、昭和59年（1984年）に「岩谷十八夜観音庶民信仰資料」として国から重要有形民俗文化財に指定されました。

現在、その資料は町歴史民俗資料館に保存され、皆さんに見ていただけるようになっています。



町の歴史民俗資料館に
保管されています



イラタカの数珠



トドサマ

国の重要有形民俗文化財に指定されているオナカマが
使用した道具の数々



今は見ることはできなくなった「オナカマ」の
口寄せの様子（昭和55年撮影）



8月18日の例祭の日の岩谷十八夜観音堂

守り受け継がれる信仰 保存会がつなぐ歴史ある文化

8月18日には例祭

毎年8月18日は、岩谷十八夜観音の例祭が行われます。この日は、信者の方々をはじめ、年に一度のこの行事をひと目見ようと、町内外から大勢の参拝者が岩谷地区を訪れます。例祭は一時途絶えていましたが、岩谷観音史跡保存会が昭和50年（1975年）に復活させたものです。

例祭日当日は、朝9時に観音堂が開堂され、ご祈祷が行われた後、法螺貝の音を合図に、四方に矢を放つ「蓬萊矢」が行われます。この矢は邪気を払い、持つ者に幸運をもたらすといわれています。

その後、火渡りの神事が行われます。修験者たちが、経を唱えながら清めの儀式を行った後、訪れた参拝者たちが、それぞれの願いを込めながら、次々と火の上を渡ります。

保存会の方々の信仰を守り受け継ぐ姿勢と、観音堂に納められていた資料は、国指定重要有形民俗文化財として、町の誇りある宝物のひとつです。



3回渡るとご利益があるといわれている火渡り

中山町と西郷兄弟の縁^{えん}

新政府軍を率いて隆盛が町内を北進

西郷隆盛は大久保利通とともに、薩摩藩を倒幕運動へ動かし、薩長同盟を成立させ、ついで、王政復古のクーデターを指導し、戊辰戦争では新政府軍の総参謀として江戸城の無血開城を実現させました。明治新政府では、参議となり、廃藩置県では隆盛の率いる軍勢力がにらみをきかせていたといわれています。そのすぐれた指導力や人望で、幕末を舞台にした小説や映画、ドラマの題材にもたびたび登場する、いわば明治維新のヒーローのひとりです。



西郷隆盛

慶応4年(1868年)閏4月4日、新政府軍(山形藩)と旧幕府軍の庄内藩が中山町の落合地区で戦いました。戦場となった橋本三九郎邸には、現在も当時の銃弾の跡を残す柱があり、戦跡を記した石碑が建立されています。



下川の渡し場にある看板

明治元年(1868年)9月20日には、隆盛が新政府軍を率いて、中山町内を通り、下川の渡し場から最上川を渡って北進しました。下川の渡し場には史跡を残す看板が設置されています。

従道が長崎小学校の開校式にご臨席

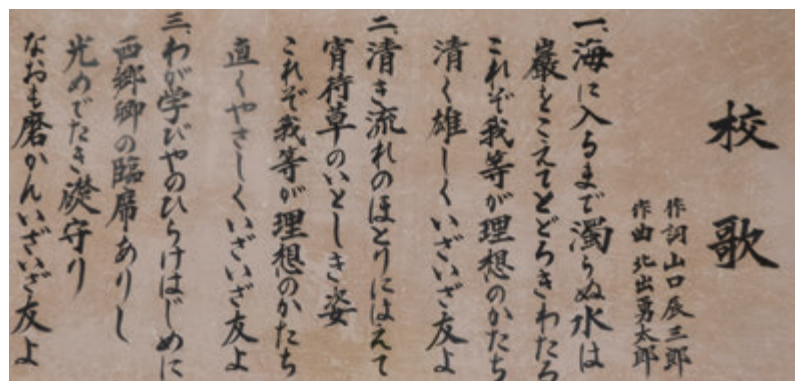
隆盛の弟である西郷従道^{じょうどう}も明治時代の軍人・政治家として、立派な功績をあげた方でした。伊藤博文総理大臣のもと初代海軍大臣を務め、フランス式海岸防衛体制を導入し、清国に対する戦備の充実に努めました。また、後には、海軍大臣として功績をあげたことにより、初の元帥海軍大将となった人です。



西郷従道

明治15年(1882年)10月5日、当時海軍中将農商務卿であった従道が長崎村(当時)の長崎中学校(小学校併設)の開校式に明治政府からの来賓として臨席し、祝辞を述べたという記録が残っています。西郷卿が住民の歓呼に応えたバルコニーは、現在、町の歴史民俗資料館に移設、保存されています。

昭和2年(1927年)に制定された同校校歌の一節に、「わが学びやのひらけはじめに西郷卿の臨席ありし」とあり、現在まで歌い継がれています。



今なお歌い継がれている長崎小学校の校歌

鹿児島市城山の西郷像のモデルは 中山町民 故 石澤宏太郎さん



鹿児島市城山の西郷像

石澤宏太郎さん（明治23年～昭和33年）は、最上村（当時）川端地区に生まれ、後に長崎町（当時）選出の山形県議会の議員を務められた方です。

鹿児島市城山にある西郷隆盛の像が、この石澤さんがモデルだといわれています。

先に建立されていた東京上野の西郷隆盛像は、隆盛の姿とはあまり似ていなかったのではといわれていたので、鹿児島に建てようという話が持ち上がった時は、「ぜひとも似ているものを」という声があったそうです。制作を依頼されたのは、鹿児島市出身の彫刻家安藤照氏（明治25年～昭和20年）です。安藤氏は隆盛像のイメージを作るため、遺品を集めたり、似ているといわれている人物の研究をしたそうですが、なかなか決定には至らなかったようです。

安藤氏がモデル探しを始めてから6年余りが経過した昭和9年11月、亡くなった一人娘の胸像を安藤氏に依頼した伯父とともに、石澤氏は安藤氏の東京のアトリエを訪れました。それが運命の出会いでした。

「あなたほど西郷に似ている人はいない」と、その場でモデルになることを懇願されました。石澤氏は、身長178cm、体重90kgで、その立派な体格は隆盛の遺族からもそっくりだとお墨付きをもらったようです。石澤氏は、安藤氏のアトリエに通うことになり、隆盛が実際に着用した軍服姿で様々なポーズを取り、安藤氏のイメージづくりに協力しました。制作の依頼を受けてから数年、なかなか制作に踏み切れなかった安藤氏でしたが、この出会いにより、昭和11年（1936年）に西郷隆盛像は完成しました。



安藤氏のアトリエで
ポーズをとる石澤宏
太郎氏

ご子孫を招き シンポジウムを開催

平成29年（2017年）10月4日には、西郷隆盛・従道兄弟のそれぞれのご子孫をお招きし、町中央公民館を会場に「西郷兄弟に学ぶ中山町の未来」と題してまちづくりシンポジウムを開催しました。シンポジウムは、第1部が西郷正道氏（西郷従道のひ孫）の講演会、第2部がパネルディスカッションの2部構成で行われ、会場は200名を超える来場者で埋め尽くされました。

講演会では、農業の未来を示唆してくださり、パネルディスカッションでは、夢を持ち、弱き者のために国づくりに奔走した西郷兄弟の精神を学ばせていただきました。



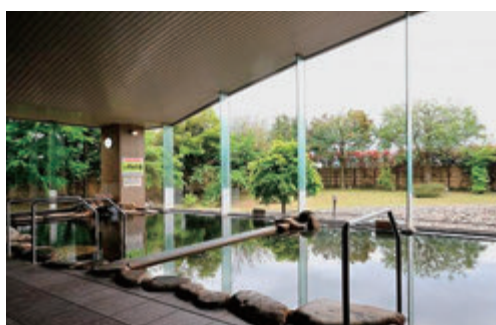
西郷隆文氏（左）と西郷正道氏（右）

翌日の10月5日に開催された長崎小学校の開校135周年記念式典には、西郷兄弟のご子孫にも臨席していただき、小学校の児童たちに、郷中の教えなどの素晴らしいメッセージをいただきました。

中山町のあゆみ

昭和29年10月1日	長崎町と豊田村が合併し、中山町が誕生
昭和30年8月26日	町章が決定
昭和40年4月7日	長崎中学校、豊田中学校が統合し、中山中学校となる
昭和41年4月	役場庁舎改築工事が完成
昭和43年11月21日	統合中学校の新校舎が完成
昭和48年7月1日	中央公民館が開館
昭和51年1月	50年米づくりで多収穫県一となる
昭和54年3月2日	長崎小学校の新校舎が完成
昭和55年4月2日	若草、桜の両保育園を統合し、ひまわり保育園が開園
昭和56年3月5日	豊田小学校の新校舎が完成
昭和57年9月19日	第1回アユまつりが最上川河畔で開催
昭和59年5月	岩谷十八夜観音庶民信仰資料が国の重要有形民俗文化財に指定
昭和61年2月1日	役場の窓口即時処理システムが稼働
平成5年12月25日	ひまわり温泉「ゆ・ら・ら」がオープン…①
平成7年9月2日	総合体育館がオープン
平成10年12月5日	特別養護老人ホーム「中山ひまわり荘」が開所
平成11年6月7日	防災ステーションが完成
平成13年4月2日	保健福祉センターがオープン
平成14年9月1日	ひまわりグラウンド・ゴルフ場がオープン
平成15年3月	ひまわり、ひばり両保育園を統合し、なかやま保育園が完成
平成20年9月13日	第1回元祖芋煮会in中山が開催
平成21年11月5日	新中山町斎場の供用開始

平成24年 4月30日	町立図書館「ほんわ館」がオープン…②
平成27年 2月	中山町学校給食センターを改築
平成28年 1月	中山中学校 新校舎落成…③
平成31年 4月25日	町のシンボル「楯の大イチョウ」が町の天然記念物に指定
令和元年 9月30日	旧柏倉家住宅が国の重要文化財に指定
令和元年10月	広瀬団地町営住宅完成
令和 2年 4月 1日	中山町防災行政無線（同報系）の運用開始…④



①ひまわり温泉 ゆ・ら・ら

泉質が良く、環境・設備とも充実した公共の宿です。令和元年には、ヒノキの匂いが香る露天風呂も完成しました。四季折々の木々の表情、月山・葉山・左沢線鉄橋の遠景、満天の星空を、効能豊かな温泉とともにご堪能ください。

②中山町立図書館 ほんわ館

吹き抜けや大きな窓のある明るく開放的な図書館です。充実した読書スペースのほか、DVD視聴・インターネットコーナーや、学習スペースなども設けており、大人から子どもまで利用できます。



③中山町立中山中学校

中山中学校の新校舎は、木材をふんだんに取り入れ、日光がたくさん差し込む温かく明るい学校です。生徒たちが学習に集中できるよう冷暖房設備が完備され、災害時には避難所としても活用されます。

④防災行政無線（同報系）

令和 2年に運用が開始されました。町内各所に設置された屋外拡声子局、戸別受信機およびスマートフォンアプリを介して、緊急の災害・防災情報等を即時広域に伝達する設備です。



中山町マップ





▲中山町観光協会HP



第6次中山町総合発展計画

郷土の誇りを 未来につなぐ ひとが輝く健幸のまち なかやま
～思いやりの絆で築く みんなの想いが響くまち～

※健幸：個々人が健康かつ生きがいを持ち、安心・安全で豊かな生活を営むことができること。心身の健康にとどまらず、健康づくりの取組みや社会参加などを通じての幸せを含む概念。

●この将来像を実現するために、今後10年間における施策展開について、各施策分野の基本的な考え方とともに施策分野を越えて重点的に実施する4つの「分野横断の取組み（重点プロジェクト）」を次のとおり設定しました。

防災・減災 災害につよいまちづくり

大規模な地震や気候変動が原因とみられる豪雨など、近年の自然災害の激甚化を踏まえ、平時から地域のつながりづくりに取り組み、防災・減災に対する意識を高めるとともに、行政・町民・関係団体が一体となり被害の最小化に向けた仕組みづくりを推進するなど、災害への備えをより万全なものとしていきます。



子どもたちが住み続けたい・帰ってきたいと思えるまちづくり

子どもたちの町に対する愛着を深め、「中山町に住み続けたい・帰ってきたい」と思えるようなまちを目指し、子どもと地域の関わりや、自ら暮らす町の歴史・伝統、地域のことを学ぶ機会づくりなど、大人も子どもも互いに学び合い、育ち合うことができる仕組みづくりに取り組みます。

また、定住する町を決めようとするファミリー層など若い世代のニーズを踏まえ、「中山町に住みたい・帰りたい」を後押しする取組みを展開していきます。



歩きやすいまちづくり・歩いて健幸のまちづくり

車を運転しない子どもや高齢者なども公共交通機関を利用しながら歩いて暮らせるようなまちづくり、町民が心身共に健康で幸せな暮らしを実現できる「歩いて健幸のまちづくり」に向けて、町民の意識醸成や歩きやすい環境整備、公共交通機関の利便性向上に取り組みます。



町役場庁舎・公共施設再配置の事業化

町の公共施設の利用状況や整備時期、老朽化の程度などを踏まえながら、適正な管理運営に取り組むとともに、町民の利便性向上、防災拠点としての機能確保、行政機能の集約、歩きやすいまちづくり・コンパクトなまちづくりとの関連など多様な視点から、これからの中山町にとって望ましい施設の在り方について、具体的な検討を進めます。



数字で見る中山町

面積：31.15km²

平均気温：12.8℃

降水日数：131日

降水量：1,261.5mm

降雪日数：81日

平均湿度：73%

日照時間：1,789.8時間

最深積雪：53cm

総人口：11,200人

人口（男性）：5,499人

人口（女性）：5,701人

世帯数：3,690世帯

1世帯あたり人口：3.0人

夜間人口：11,363人

昼間人口：8,293人

（引用：令和元年版数字で見るなかやま）

中山町は、山形県の中央部、奥羽山脈と出羽丘陵に囲まれた山形盆地にあり、南は山形市、東は天童市、北は寒河江市と隣接しています。

山形県内で一番小さな町ですが、魅力あふれる歴史・文化・自然に恵まれた心豊かな町です。



中山町へのアクセス

JR

- ◆東京駅－（山形新幹線 2時間40分）－山形駅－（左沢線フルーツライン 20分）－羽前長崎駅（所要時間 約3時間）
- ◆仙台駅－（仙山線 1時間10分）－山形駅－（左沢線フルーツライン 20分）－羽前長崎駅（所要時間 約1時間30分）

自動車

- ◆東京－（東北自動車道 3時間30分）－村田JCT－（山形自動車道 40分）－寒河江IC－（国道112号 5分）－中山町（所要時間 約4時間15分）
- ◆仙台宮城IC－（東北自動車道／山形自動車道 1時間）－寒河江IC－（国道112号 5分）－中山町（所要時間 約1時間5分）

飛行機

- ◆東京国際空港（羽田）－おいしい山形空港（所要時間 1時間5分）
- ◆大阪国際空港（伊丹）－おいしい山形空港（所要時間 1時間25分）
- ◆名古屋空港（小牧）－おいしい山形空港（所要時間 1時間15分）
- ◆新千歳空港（札幌）－おいしい山形空港（所要時間 1時間15分）

※おいしい山形空港から中山町までは、車で約30分。



町章

中山を外かくに表し、中は平和のシンボル、ハトが力強く雄飛し町の発展を示し、山は円満団結を示して、全体を引き締めたデザインです。



町の花／ひまわり

JR羽前長崎駅を中心に町内各所で、7月から8月にかけてご覧いただけます。



町の木／イチョウ

【楯の大イチョウ】

樹 齢：推定600年以上

樹幹周囲：7.2m

樹 高：約25m

山形県中山町町勢要覧（令和3年度作成）

発行：中山町総務広報課

（山形県東村山郡中山町大字長崎120 電話023-662-2223（直通））

編集：中山町総務広報課庶務広報グループ

中山町公式ホームページ <https://www.town.nakayama.yamagata.jp>